



歌坂入口に立つ道しるべ

# 津奈木

前号より

発行所  
津奈木公民館  
芦北郡津奈木町  
電話(78)3111(代)  
印刷所 旭印刷  
電話(水俣) 84101番

## 薩摩街道の保存

日本が国家として統一された古い時代、太宰府府庁と薩摩を結ぶ道であった薩摩街道は、時代を下るに従い、少しずつ整備され、馬、伝馬をおき、また、一里塚を築き、川に橋をかける等して永い間利用されてきました。それでも山路などは雨が降れば川となり、路面の岩には苔がはえ、昼なお暗いところがあったと思われま。

明治三十六年(一九〇三年)現在の旧国道が新設され、九十九折ながら自動車が行くようになる。と、当地方の文化、産業の発展に大いに役立ち、特に昭和四十年(一九六五年)現在の国道三号線になってからは、路面は舗装され、交通機関も発達して交通量も倍加し、今では十数分で通り過ぎるようになりました。

国道の使命が高度になるに従い薩摩街道は、国道・町道と一部重複した部分を除き車も通らず、昔のま、で忘れられた存在になりました。

「道」はその時、その時の人間の生活に合わせて作られます。薩摩街道を「車」を持った大八車が通ったのは、恐らく明治になって橋が架けられてからでしょう。川は石が並べられて、飛び渡るのが普通でした。

今では機械力で、埋蔵文化財で

三月三日は桃の節句である。女の子の節句として、昔から楽しいまつりの日にしてきた。

このまつりは、遠く中国から伝えられたものだが、もう千五百年ばかりも続いてきているといわれている。

この節句には、紙で人の形を作り、それで体をなで、身のけがれをその人形に負わせ、海や川に流す「はらえ」という風習があったことが、有名な源氏物語などにも書かれている。

しかし、今日のような「ひな祭り」になったのは、江戸時代になってからである。女の子の節句といわれるようになったのもその頃かららしい。

小さな紙の人形が十五人ぞろいとなり、だんだん派手な衣裳をつけたり、調度がついたりして今日のような形をとっている。

時代により所により、まつりの仕方はさまざまであるが、楽しいまつりであったことに変わりはない。季節も暖かさを増し、気持ちの上でも楽しい季節のまつりでもある。

いずれにしても、古くは素朴な人間の願いをこめたまつりであったのである。現在のひなまつりの人形は豪華になり美を競っている。ひなまつり本来の姿を理解し、その心を考えることも心の時代といわれる今日、必要ではなからうか。

(石田 兼義)

## 新春を飾る

### 第四〇回熊日三太郎甘夏駅伝大会

燃える 津奈木 大健闘  
一般 単独一位 総合三位  
中学生総合五位  
去る一月十四日(日)熊日三太郎甘夏駅伝大会が開催され、水俣市役所前をスタート、湯ノ見海岸道路を回り、旧津奈木太郎峠を越え、湯浦から芦北町の旧国道を抜け旧



1区を力走する宮嶋選手(前列右側)

佐敷太郎を越えて、田浦町農村環境改善センター前をゴールとする(一般・高校生が五区間、中学生十区間、四十一キロのコースを、一般十チーム、高校生六チーム、中学生十二チーム合計二十八チームの参加で開催された。

津奈木町チームも昨年九月下旬から「今年は単独優勝を目標に」とくる日もくる日も練習に励んできた。さあ、本番の日がやってきた。午前八時BとG海洋センター前に、集合し、出発式を行い、町長の激励の言葉に励まされ大会に臨んだ。

さて、いよいよ本番。各選手の体調は上々である。単独優勝を目指し力走また力走と健闘し、Aチームは一位で単独優勝。Bチームは七位、総合三位と昨年の順位を守った。

中学生チームもよく健闘し、今年は五位と順位を上げた。

「十年連続出場功労者」として川野又男・宮嶋弘行・新立芳郎の各選手が表彰された。

最後になりましたが、各選手のご苦労とご健闘をたたえ、感謝申し上げます。

一般の部 (監督・浜本繁巳)  
Aチーム 宮嶋弘行・福田必・松永進・藤原審二・竹本昌広  
Bチーム 新立芳郎・倉野義彦・柿内幸男・平野新市・齊藤拓巳  
中学生の部 (監督・堺圭一)  
長浜智一・黒田博明・鶴野智治・新立康晴・川野敏宏・林田安富・浜田 久美子・宮田浩司・坂本太郎・中村貴志

## 桜戸地区元旦健康駅伝大会

桜戸地区では昭和六十年より毎年元旦に健康駅伝大会を行っています。この大会は地区の人達の交流と体力増進を目的に始められ、午前十時三十分には総合グラウンドで新年の挨拶を交わした後、開会式、隣保班毎にチームを作り、午前十一時にスタートします。始めてすぐの頃は区間タイムをとり、区間賞を設けるなどしましたが、参加者が段々減ってきたため、楽しく走れる大会にしよう、今年も勝



負にこだわらず、途中で障害走をとり入れるなど、選手の力走と盛んな声援で終始楽しく、なごやかな裡に大会を終わりました。今後とも皆さんが楽しく走れるような大会を続けて行こうと思います。

## 舞いあがった風・風・風……



風あげ大会風景

「飛んだ」飛んだ「新春の太空中に舞い昇る風。平成元年度親子風あげ大会が、一月二十一日(日)総合グラウンドにおいて開催されました。

現代っ子は物を自分で作ることを

一日で歩く速さは？  
馬車も車も走れない薩摩往還を自分の脚だけがたよりの頃、どの位の速さで津奈木を通っていたであろうか。

その記録が最も多いのは、島津の殿様が参勤交代で出府したり、下国したりした藩譜に見ることが出来る。公式旅行であるから随行者も多く、日程は早くから決まっていた。若し変更すると他の大名と旅費が鉢合せし兼ねないからどんなに雨が降っても狂わすことが出来ない。

鹿児島を出発して五日目、出水から佐敷までが一日の行程で、島津成彬公(「翺ぶが如く」)に出る開明の殿様で、照国神社に祀られた(の)日記によると、この距離は九里三町ある。大名行列でもノロノロ歩いたのではないことがわかる。

加治木から大口を越えて水俣まで一日で着いた健脚家は頼山陽である。その間十二里半(「鳥居文書」)文政元年(一八一八年)十月絶好の季節とはいえず、軟弱な文筆家だったらすぐに「タババ旅行である。

高山彦九郎は「筑紫日記」(寛政四年三月(一七九二年)に津奈木の文化人たちの交遊を録している。先きを急ぐでもない気ままな旅であるが、一体に昔の人は健脚であった。

地域をおこす人々(8)

健康づくりを推進する

福山 安恵さん (75才)

高齢化社会の到来により、健康の維持増進にますます関心が高まっております。平国老人クラブでは福山安恵さんが積極的に健康づくりに取り組み、地域社会と一体となつて、人生八〇年時代にふさわしい健康でいきいきとした高齢者の健康づくり事業を進めています。活

動にあたっては、健康学習、健康管理、健康増進、事故防止の四領域毎に活動計画を策定し、組織的に推進して行くものであります。平国老人クラブはモデルクラブの一つとして取り組んでいるのです。その活動状況を紹介しましょう。会員数七四名ですが、常



時の活動参加者は五〇名程度とすることです。福山さんを中心として十名の推進員、協力員をもつて組織し、皆さんで活動年間計画を作成、活動が推進されています。定期的に実施されていることは、毎月初めに体重測定、血圧測定です。活動の主な事例をひらいてみますと、医師、保健婦さんによる講話、健康相談、ハイキング、竹踏み運動、各種検診の積極的受診、軽スポーツの実施、

交通安全教室の開催、食事に関する講話及び料理講習、救急法の習得、映画、スライドによる保健学習など盛り沢山のプログラムを実践しております。今までの活動の成果として①出席率が高くなった。②健康に対する関心が高まった。③ふれあうことで和やかな雰囲気ができ上り親密さが増してきた。④心の健康につとめるようになった。⑤協力体制が生れてきた。⑥環境美化に留意するようになった。と語っておられます。また、問題点として



庁舎美術館(28)

静寂。沈黙。ユラユラと、ゆつくりと神秘的ひだの音がゆれている。人の営みの届かない、神々の住む世界はこんな所ではないだろうか。我々はいつか、こんな空間へと導かれることを心の底で望んでいるのかもしれない。すべての雑事が、目の前から消えていった。(T)



て苦心しておられることは、病弱の人たちをどのようにしてこの活動の中に組み入れていくか。即ち個人差に応ずる実動計画をどう立案するかということ。今後の課題としては、施設等におられる方々を慰問激励したい。また、小学生との伝承遊び教室も行われていますが、もつと遊びの数を増していきたいと意欲的です。目的達成をめざして頑張ってください。(林田記)

読書感想文

「ヘレンケラー」を読んで

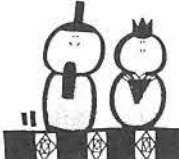
赤崎小学校五年

岩崎 修一

目も見えず、口もきけず、耳も聞えないという三つの病気に小さい時から苦しんだヘレンケラー。「この病気はどのくらい苦しいのだろう。目も見えないだけでたいへんなのに」と思いました。自分では目を見えませんが、真暗でも目を見えませんが、歩いただけで、つくえにぶつかってしまいました。ぼくがヘレンケラーと同じ立場だったらどうしていたのだろう。たぶんすぐに死んでいたかもしれない。でも、ヘレンケラーはがんばってその病気に立ちむかっています。

始めは、ぼくと同じように病気に負けてわがままな女の子になっしまいました。この時にこれからの「サリバン」と言う先生でした。サリバン先生は、三重苦のヘレンに指文字を教えることにしました。ぼくも母から手に書いてもらいましたが、ぜんぜんわかりませんでした。それなのに、ヘレンケラーはしだいに指文字を理解し、その指文字を使えるようになっていきました。ヘレンケラーは一日30文字以上は覚える努力をしていったそうです。

ある時、ヘレンケラーはしゃべれるように訓練したいと申しでました。ヘレンケラーは指文字を覚



短歌

宮崎 優選

花サンショウと記せる木札下り  
おり逝きたる夫の字すれゆく  
亡き夫の座したる椅子に内職の手  
もとに朝の陽はあたたかし  
白浜 美和子  
畑土にまみれし手よりこぼれたる  
赤き小燕の色鮮かなる。  
冷えし朝の港に舟を出す漁師  
の声もかじかみて遠のく  
西 滋子  
日輪をよぎりて飛びし山鳩の羽色  
は銀に輝きて見ゆ  
あらあらし吐息も白し旧道を疲走  
ゆく選手に小旗うち振る  
寺本 ツルヲ  
底冷ゆる夜を徹して語りたる友を  
想いぬ明日は凍らむ  
夕餉時の厨に嫁の菜をきき音聞  
き入りて風邪に臥しいる  
野田 浦子  
南天の直白き霜置くはぎまよりつ  
ぶらな赤き実に初日さす  
蒸器より立ち昇る湯気よもぎの香  
をお供えの餅すでにできたり  
福田 八重子  
思ふこと皆すませたり平成の除夜  
の鐘きく往く年しのびつ  
箱火鉢炭火囲みぬはからとカル  
メラ焼きしを思い出したり  
柳迫 いづも  
時雨降る夕べの庭にとぎれとぎれ  
にこころき鳴くを聞くは悲しも  
山元の柿の大樹に赤き実のたわわ

肥後狂句

堀 双岳選

困ります、歌も踊りも大苦手  
売れん、隣の店が安かまん  
困ります、けじめはつけてもらわ  
んと  
売れん、別びんさんと替ろうか  
困ります、税金ばかり高うして  
売れん、涙ながらに切るみかん  
困ります、内でニンク食うな媽  
売れん、娘三人トウの立つ  
次笠  
逃げる。ぞろぞろ。一笠二句  
三月末まで。倉谷、堀双岳へ

町指定文化財

紅みかん



し、旧正月を過ぎた頃喰べた人は、誰もが「美味い」といつてくれる。植えてから十年ほどは、高く伸びるだけで実をつけない。あまり背が伸びすぎるゾと、甘夏などから日照権問題とやら持ちこまれるのは困る。俺の樹液は甘いのか鉄砲虫はいりこんでくるのは弱る。ところで、俺の美味さを聞きつけて、種をくれという物好きがいるが、絶対津奈木から出てゆかないよう厳命されている。しか

となりて夕陽にかがやく  
鳥井 保  
松の内を無事に越したり我がいの  
ち国首に委ねまた一年を  
初春の診療室に並ぶかお一病息災  
の悟りや如何にと  
小嶋 正弘  
激動の世とかかわりのなき吾れか  
セキレイ一羽庭面走る  
李白の詩思い出したり芋釜の月光  
受けし薬膏の霜  
宮崎 優

「ロメオ」短歌は常に抑圧の構造をもった詩型である。歌の存在価値はそれ余白、余情にあり、歌は海面に現れた氷山の一角にすぎない

激動の一九八九年

松本 央

ク大統領は再任された。それを見て、「ああ、やはり簡単には共産党独裁は崩れるはずはない。」と思つたものだった。ところが間もなくチミショアラで、人民のストライキが始つたというニュースを聞いたが、これも治安部隊が投入されたことを知って、小さな悲劇として扱われるだろうと思つたものだ。それが主都アカレストでの組織的な民主戦線結成に変わり、激しい市街戦が展開され、大統領はヘリコプターで逃げ出したが、間もなく捕つてしまつて、死刑に近い形で惨殺されてしまつた。その間に、次々に真相が暴露されて、かねがね共産党とはあんなものかと思つ

維持するために、アカレスト市内中に、張りめぐらされたデモ取締り用の地下道の建設には、肌に乗立つて逃げ出したが、間もなく捕つてしまつて、死刑に近い形で惨殺されてしまつた。その間に、次々に真相が暴露されて、かねがね共産党とはあんなものかと思つ